

序

平素から市立泉佐野病院の運営に厚いご支援を頂き有難うございます。平成22年度の病院年報をお届けします。

平成22年度をふり返ってみますと、市立泉佐野病院の経営形態を見直して次年度当初に直ちに始まる独立法人化の準備に明け暮れた年度でした。独立法人化の目的は、当然のことながら、患者さんが現状より良質な医療を受けられる状況にすることです。

大阪府の公立病院改革ガイドラインに沿って、泉佐野市は平成20年度に中期目標策定をスタートさせ、院内では自主的改革目指す実行ツールとしてB S C（バランススコアカード）を採用しました。平成21年度に引き続いて22年度も病院各部署にはB S C作成、B S C大会での全部署からの発表、改革途中に生じた問題点のヒアリングなどから、現場発の改革案も大いに活用して完成した中期計画を評価委員会と市議会に諮り承認を得ました。当院は平成17年に深刻な医師不足のため24時間救急の一部を休止しておりましたが、生死に直結する急病が多い母子医療センター、脳神経センター、心臓センターだけはそれぞれに一貫して専門救急と称する24時間の救急体制を堅持してきました。そのため、常時医師が八人以上も院内で当直を義務づけられております。

さらに、医師不足の状況下にあっても公立病院としては一般救急においても高水準の医療を提供する必要があると考え、大阪府と協議して、平成25年には隣接する大阪府立泉州救命救急センターと合併して総合的・機動的な地域救急医療を実現する計画を進めております。

市立泉佐野病院は、泉佐野市民に限らずそれ以外の周囲自治体住民も対象に診療を行っております。その為もあって、平成23年4月1日には経営形態を“地方独立行政法人”、施設名を“りんくう総合医療センター”と変更することが決定され、泉州南部地域での中核的役割を果たすべく前進を続けたいと存じます。新たな出発に当たり、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう切にお願い申し上げます。

泉佐野市病院事業管理者

種子田 護